

第2回西脇市総合教育会議 議事録

平成27年11月24日

西脇市教育委員会

西脇市総合教育会議
議事録

1 開催日時

平成27年11月24日（火）午前10時00分～午前11時55分

2 開催場所

西脇市生涯学習まちづくりセンター 会議室1

3 出席者

(1) 市長及び教育委員会

市長	片山象三	教育長	笹倉邦好
教育委員	藤原久和	教育委員	岩本理香
教育委員	内橋和彦	教育委員	小澤陽美

(2) 事務局

都市経営部長	大前悟
教育部長兼教育総務課長	森脇達也
教育総務課主幹	清瀬泰弘
学校教育課長	竹内誠
学校教育課教育研究室長	松本浩
生涯学習課長	山本昇司
青少年センター所長	永井寿幸
図書館長	楠本昌信

4 傍聴者

なし

5 会議の概要

(1) 市長あいさつ

(2) 協議・調整事項

ア 平成27年度「全国学力・学習状況調査」検証結果について

イ 平成28年度教育委員会重点施策の概要について

(3) その他

西脇市総合教育会議 議事録（平成27年11月24日）

○事務局

本日は大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今から、平成27年度第2回西脇市総合教育会議を開会いたします。私は、本日、事務局を務めさせていただきます教育部長の森脇でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして片山市長から御挨拶をいただきます。市長、よろしくお願いいたします。

◎片山市長

おはようございます。総合教育会議の開会に当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。平素より、教育委員の皆様方には、お忙しい中、本市教育行政の推進に格別の御支援、御尽力を賜り、心から感謝を申し上げます。

6月に開催いたしました第1回の総合教育会議では、教育委員の皆様方から、様々な意見を頂戴し、教育振興基本計画を大綱と位置付ける決定をしていただきました。また、議論を通じ、教育行政における課題、これまでの取組などについて、共通認識を深めることができたと感じております。今回の総合教育会議では、今年度の「全国学力・学習状況調査の検証結果」と「来年度の予算要求における教育委員会の主な事業」について協議、調整を進めていきたいと考えております。特に、来年度の重点施策に関する協議の結果につきましては、財政上の制約等がございますが、可能な限り尊重して予算措置に繋げていくことが、新たにこの会議が創設された重要な意味だとも考えています。

一昨日、ストリートフェスティバルを開催いたしまして、若者の方にもたくさん来ていただきました。昨日は、医療フォーラムがありまして、そこで、邊見先生とおっしゃる有名な方に来ていただきましたが、「医療と教育は地方創生の要である。」ということをおっしゃっていました。医療と教育が寂れると、まちは寂れるということを強調されていました。「医療と教育は地方創生の要」、本当にそのとおりだと思いました。

それでは、前回同様、きたんのない御意見を賜り、活発な議論ができればと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。

この後、議事に移らせていただきますが、本日は来年度の重要施策等に関する協議の関係もありまして、都市経営部の大前部長にお越しいた

だいています。

それでは、会議の議長につきましては、「西脇市総合教育会議運営要綱」に基づきまして、片山市長にお願いしたいと思います。市長、よろしくお願いいたします。

◎片山市長

それでは、まず、会議録署名委員につきましては、私から指名をさせていただきます。岩本委員、内橋委員、両氏にお願いします。会議録の署名をもって「運営要綱」第5項第2号の会議録の承認とみなしますのでよろしくお願いいたします。

◎片山市長

引き続き、お手元の次第に従いまして進めさせていただきます。初めに、次第2の協議・調整事項(1)、「平成27年度『全国学力・学習状況調査』検証結果について」を事務局から説明させていただきます。

事務局、お願いいたします。

————— [説 明…記述省略] —————

◎片山市長

説明が終わりました。何か御意見・御質問はございませんか。

○委員

全ての教科で重要なのは語力だと思います。小学校の国語の成果として、「記述式の問題にも根気強く取り組んでいる。」ということが上がっています。これは以前お聞きしたことがある無記入回答が減ったということです。ある資料を読んでいましたら、無記入、無回答をするということは、その子どもの学力水準がすごく脆弱だということを意味しているということが書かれていました。それが改善されているということは、今後、望みが持てることだと思います。

○委員

学力調査が始まって、複数年になるとと思いますが、傾向と対策に対する改善点を考えられていると思います。毎回お伺いするのが、明確にここをこうすればいいということが分かっているけれども、全市の小中学生に行き渡らないというところが課題だと思いますが、実際に数校で成功事例が出ているわけですから、それを参考にして、全小中学校に教育委員会主導で必須ということにすれば、学力向上の一端にならないかと思うのですが、各学校で差が出てきているのは解消できないのでしょうか。

○事務局

先ほどの委員の御意見ですが、成功事例を広めるために「学力向上推

進委員部会」というのを持っています。様々な層に働き掛けることが大切だと思っています。学校の経営層、管理職の層、ミドルリーダーの層、主幹教諭の層、若手教員の層。対策についても、若手教員に対する施策、一般の教員に対する施策、ベテランの先生に対する施策ということで、やはり全てに行き渡るように今後も施策を浸透させて参りたいと思います。

○委員

先生方皆さんの思いは、子どもたちの学力を上げるということで意識は一緒だと思っていますので、是非、頑張ってくださいと思います。

○委員

西脇市としては上向きの結果ということで、いいのですが、小学校高学年、低学年もしているんでしょうけど、朝の読書時間や放課後の小テストという形で計算問題や漢字問題などを、どこの小学校でもされているのでしょうか。というのは、そういうことを毎日することによって、試験に慣れていくというのと、やはり、読み書きが大事だと思うので、基礎学力というのはそこからも付いて、きちりやっているとします。基礎学力というのは、日々の鍛練というのが必要だと思いますし、家庭での学習が難しいとなれば、学校の放課後というか、終わりの時間のたとえ10分でも割くことによって、1日10分といえは短いかもしれませんが、5日間で50分。毎日、地道に積み重ねることによって、5日で1回の授業の時間になります。そういうことも大切ではないかと思えます。

○事務局

読書につきましては、朝の読書ということで実施しておりますので、今後も継続して参りたいと思います。終わりの時間のテスト等につきましては、学校によって少し取組に温度差があるように思えますので、今後、委員の御意見を参考に定着させるための仕組みを工夫して参りたいと思います。

○委員

西脇市の教育の取組として、「満点チャレンジ」とか「問題データベース」などを使われて、各学校がいろいろと取り組まれていると思います。成果が出ている学校があるので、そこを真似してできればいいと思いますが、やはり学校にもそれぞれの特色や地域性があって、全て真似をしても、なかなかそれが成果に結びつかないところもあり、先生方もすごく苦勞をされているというところもあると思います。正答率が出ているということは、間違ったところも分かると思いますので、子どもた

ちがどんなつまずきをしているかを細かく分析して、そこを「問題データベース」などを使って指導をされたらどうかと思います。先生方も若い方が増えましたので、基礎・基本を徹底することをお願いしたいのと、子どもたちがそのことを踏まえ、自ら学ぶ、学習したことを活用していく力を育てるということが大切ではないかと思いました。

○事務局

委員のおっしゃるところを、改善されている学校は上手に改善しています。そのあたりをさらに浸透させていきたいと思います。

○笹倉教育長

今、それぞれの委員から指摘していただきましたが、現在9年間で8回実施しています。その検証を、状態や実態把握は昨年末にできたということで、それを踏まえてこちらが作戦を練って、市長に予算を付けていただいて、具体的にやっという素地ができたと思っております。今年度は予算を付けていただいて、実質1年目ということです。目標期間は3年を置いています、その中で、今、データから言えば、相対的な評価としても満足いくようなものではないと我々自身は捉えております。ただ、結果としては、平均的にはそう大きな差はないというところに留まっています。それを大きく超えたいというのが目標です。今、11月中ずっと、学校に出向きまして指導訪問を続けていますが、最初に言っていることが、学力向上に向けてどうしているかということです。先生に聞いたり、こちらからアドバイスをしたりして指導しているところです。まだ1年ですが、私の感覚で言えば、底辺が少し上へ上がってきていて、変わってきているなということを感じています。教員は、150～160人いますが、その中でも若手の教員がすごく増えまして、中堅教員が少ないという中で、教育の伝承というのが難しい部分がありますが、若手教員がそれぞれチームを組んで教科ごとの基礎的なところを、学校を挙げて同じテーマでやっというような工夫をしながら取り組んでいる学校も出てきました。先生方の意欲がこれからも出てくるのではないかと私は捉えております。ですから、今年は十分な伸びを見せなくても、その学校については来年再来年に大きく上がるということを期待しています。そのことをいろいろなところで公表していると言ったら驚いていました。やる気というのを表現してもらえたら、認めてもらえるということで、先生方の意識も変わってきているのではないかと捉えています。まだ、今、始まったばかりと考えてください。先生が変わると、やはり、子どもも変わっていくというのが私の信念ですから、それを数年かけて積み上げていきたいと考えています。職員も新たな計画を

立てながら挑戦してくれていますので、もうしばらく経過を見守っていただきたいと思っています。

◎片山市長

ほかに御質問がないようですので、「平成27年度『全国学力・学習状況調査』検証結果について」を終わります。

◎片山市長

次に、協議・調整事項(2)「平成28年度教育委員会重要施策の概要について」事務局から説明をお願いします。

○事務局

各所属から説明をさせていただきますが、あくまでもこれは教育委員会で28年度に向けて上げた事業でございます。まだ予算折衝をする前の段階なので、そのあたりは御了承願います。それでは各所属から説明をさせていただきます。

————— [説 明…記述省略] —————

◎片山市長

説明が終わりました。何か御意見・御質問ございませんか。

○委員

「数学甲子園西協予選大会」についてですが、兵庫教育大と連携してということで、学力向上というのは学力の底辺も上げないといけないですが、上位部分を上げると必然的に下位層も上がっていくということを教育長も以前おっしゃっていました。こういう事業は勉強を頑張りたいと思っている子どもの意欲を上げることに繋がるので、とてもいいことだと思います。この数学甲子園が定着していけばよいと思います。

続いてICTの取組について、全中学校でICTを活用していくということですが、忘れないでいただきたいのが、「はればれ教室」に通われている児童・生徒たちに使わせてほしいということです。なぜかと言うと、自宅から「はればれ教室」に通うのが第1歩だと思いますが、どうしてもそこに通う子どもたちは、学力がついていかなくなると思います。先生方も手厚く教えておられると思いますが、そこからさらに引き上げるところにおいては、手が回らないと思いますので、それがICTの取組によって勉強するきっかけになればと思います。専科の学力維持も含めて、効果的であれば導入していただきたいと思います。

○事務局

「はればれ教室」についてですが、学力調査に出ています「問題データベース」に関しては導入しておりますので、問題等については、活用が可能な状況です。「がんばれ中学生支援事業」でICTを利用して授

業の動画等が見られるようにしていきたいですが、今、中学生もたくさん行っていますので、いろいろな授業を自分で見ながら勉強するのも方法のひとつであると考えています。大学生が授業の動画をたくさん動画サイトにアップしています。無料でも見られるものが配信されていますので、そういうものも今後は利用を考えていかなければならないと思っています。

○事務局

ICTの関係で学校教育課、教育総務課いろんな分野に関係していますが、動画等の配信に耐えることができるインターネット環境の改善を図るところで、これが教育委員会としてが一番重要課題で、実際にタブレット端末を試験導入していますが、動画を見ればインターネットが止まってしまう状況です。今日、市長と都市経営部長がいらっしゃるわけですが、非常に費用がかかります。市役所はセンターサーバーを導入していますが、学校はそうになっていないというところなんです。ICTを進めるうえで元になる部分の改修を何とかしたいと考えています。費用がかかりますので、それがネックとなっているのですが、少しでも効率的、経済的な方法でできないかと検討しているところです。

○委員

一般からの西脇小学校と神戸新聞との取組を見学させていただきましたが、あれは各端末に専用回線がついているものなので、快適に動くということです。今後、西脇市がICTを進めていくに当たって、そこが一番大きな問題だろうと小学校の先生もおっしゃっていました。

◎片山市長

総務省のICTドリームスクール実践モデルについては、市としては予算を支出しないで実施できている非常にありがたい事業です。子どもたちはあまり教えない状況でも操作できているということです。インターネット環境を作るということは高額になりますし、他の優先課題を見ると、すぐに来年するということは難しいかもしれません。そんな中で、学校教育も例えば動画であればタブレットに収められる容量のものをタブレットに収めて利用するであるとか、工夫もいると思います。

○委員

「市内統一学力調査の実施」についてはいい施策だと思います。どうしても全国学力調査になると、当該学年しか分からないので、昨年、一昨年と比べてどうであるとかいうのは分かりでしか見られないのですが、それ以外の学年で前もって学力調査をして、その対策などを取ることができると思いますので、是非、頑張って実施していただきたいと思います。

○笹倉教育長

今、委員がおっしゃった市内統一学力調査の件については、8月の子ども議会で中学生から提案があったことです。これはいいなということで、子どもたちがそういうふうに思っているのであれば、全国とはまた違ったレベルで、市の中で子どもたちの期待に応えることをしていったらどうかというところから始まりました。是非、やってみたいというところでは。

◎片山市長

ちなみに、読書通帳に金額を記載する案についても、子ども議会で提案があったことです。

○委員

I C T教育の推進もとても大切だと思いますが、現状と課題として、校務支援ソフトの導入がされておらず、校務に支障をきたしているということで、先生方がそういうところに時間を割かれているということは、やはり子どもたちと向き合う時間が少なくなったり、先生方の研修の時間が少なくなることがあると思いますので、時間が非常にもったいないと思います。是非、取組として校務支援ソフトの導入をしていただけたらと思います。よろしくお願いします。

○事務局

兵庫県内におきましても、校務支援ソフトを導入していない教育委員会は非常に少ない状況です。校務支援ソフトを導入すると何が良いかというのは、学力向上と関係がございますが、学校経営をしていくに当たりまして、子どもたちの情報や実態がしっかり把握できる、そして改善の手が打ちやすいということがございますので、是非とも検討いただけたらと考えています。ただ、それを実現しようとするすると、安定したインターネット環境が必要でございます。

○事務局

先ほどから申しておりますI C T教育の推進につきましては、インターネット環境の改善が全てに関連してくるということになります。

◎片山市長

なかなか上手に作られていますね。

○笹倉教育長

この件につきましては、一覧表が県から出ていましたね。管理職の研修等にも出ていますが、非常に恥ずかしいデータです。

○委員

「がんばれ中学生支援事業」でI C Tを活用して動画配信を行い土曜

日に学習を行うということは、すごく大切なことだと思います。

I C Tも大事ですが、市内の小中学校の先生の中で、優秀な大学を出られている先生もいらっしやると聞いています。そういう先生方が小中学校の時に家庭でどういう学習をしていたとか、授業をどういう態度で受けていたかとかをパソコンで見るのもいいのですが、やはり、生の声を、教えられている先生から届けるということも大事なのではないかと思います。

「市長ふるさとを語る」ということで、この前も西脇小学校で講演会をされていましたが、市の職員や地場産業で働かれています方で優秀な方の話を聞いて、学力向上に直接繋がらないのかもしれませんが、そういうところで人間として生きる力を育み、その上に学力を身につけるといふ、そういうことも並行してやっていただけたらと思います。

○事務局

従来から、小中学校においてもゲストティーチャーということで地域の方々に来ていただいて、いろいろな事を教えていただく機会がありますし、そういうところでも子どもたちはいろいろな事を掴んでいっていると思います。さらには、生涯学習課の「ふるさとDE語る」では、地域出身のいろいろな分野で御活躍されている先輩からお話を聞く機会を設けるということもしています。教員に関しましても、学級会や授業中を捉えて、いろいろな話をしていますので、今、委員がおっしゃったようなところについても拡充していければと考えております。ただ、授業数の関係もございますので、全てを導入することは難しいです。そのあたりの兼ね合いも含めて検討していきたいと考えています。

◎片山市長

今、御指摘があったことについてですが、「市長ふるさとを語る」につきましては、まちかどミーティングの中で出た意見ですが、若者がせっかく高校まで西脇で育ったのに、卒業すると大学に行って出ていってしまうことに対して、郷土愛、西脇で生活をする若者を増やしてほしい、そういう教育をしてほしい、という要望が野村町の方から出まして、それを受けての事業です。講師を呼べば予算が必要ですが、市長が行けば予算もなく実施できるということです。今、秘書広報課が10周年のPRビデオを作っていますが、それにプラスして、これは、「まち、ひと、しごと」の中で予算が取れましたので、それも利用してやっていこうと思っています。西脇市に住んでほしいということです。昨日、医療フォーラムで10人の中学生の作文の発表がありましたが、「私の大好きな西脇で」とかいうフレーズが素直に出ていました。これは、医療を守る会

の皆さんの献身的な運動に賛同されて、子どもたちの純粋な気持ちが反応したのかなと思っています。そういうところでも、教育、特に郷土を愛する教育というのは大事だなと思いました。応援していくことはしていこうと思っていますが、これは普段から大人がそう思っていないとだめだと思います。他の都市では、養父市の市長がこれをされているようです。極端なことを言うと、神戸市や明石市などでは市長が全ての学校を回れませんので、養父市というとおそらく西脇の半分強ぐらいの人口だと思いますが、すごく危機感を持って取り組まれています。小学校6年生と中学2年生だったと思いますが、2回実施するのがミソだとおっしゃっていました。小学校のときに簡単なものをして、中学校にグレードアップしたものをするということです。

○委員

それに関連して、学力向上は結局ひとつづくりということになり、それは、まちづくりにも関連してきます。西脇を愛して、西脇で働き、西脇で活躍する。いったん市外に出ても再び戻って活躍ができる西脇市を作っていきたいというのは、そのとおりだと思います。

もう一つは、文化財の活用ということで頑張っていたいただきたいと思います。市内には説明にあったように42件の指定文化財があるということです。これを何とかもっと活用していただけないかなと思います。本で読みましたが、文化財を活用することによって、地域の地理的な環境や人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人たちの働きを理解することができるという書かれてありました。それをするによって、誇りとか郷土愛が生まれてくるということも書いてあったので、今後、各地域にあると思いますが、活用を考えていただけないかなと思います。

○事務局

文化財の活用については、今回の資料には上げていないのですが、昨年度に文化財の専門員が1回、出前授業ということで中学校に行って授業をしています。好評だったとのことで、今年度も各学校に西脇市の貴重な文化財を知っていただくということで、出前授業を計画しています。学校教育課との連携で、授業のカリキュラムとの関係がありますが、回数を増やしていけるように調整していきたいと思っています。

○事務局

委員がおっしゃったことは、非常に大事なことだと思います。先人の美德を偲ぶという意味合いもありますし、神社仏閣、それ以外の文化財を知るということは、子どもたちが西脇を知るためには大事なことだと思います。1点、今年2回「西脇ふるさと探訪ハイキング」というこ

とで、郷土資料館と中央公民館が共催で開催しておりまして、参加者についてはもう少しPRしなければならないのですが、神社仏閣などの文化財を中心にハイキングします。専門員から、その文化財についての説明を行います。親子参加を奨励していますが、そういったことをPRする中で、多くの参加を得て、いい企画だと思っていただけるように今後進めていきたいと思っています。昨年度は黒田庄地区、今年は比延地区で行います。御意見ありがとうございました。

◎片山市長

ほかに御意見・御質問がないようですので、「平成28年度教育委員会重要施策の概要について」を終わります。この協議結果につきましては、財政上の制約等もございしますが、可能な限り尊重した上で、予算折衝していきたいと思えます。

◎片山市長

次に、次第3、「その他」ということで、前回同様、教育や学術、文化振興に関する意見交換の場としたいと思うのですがいかがでしょうか。今の協議・調整事項に関連したことでもよろしいですし、他のことでも構いません。御発言されたいことがおありでしたらお願いいたします。

○事務局

1点情報提供ですが、スポーツ活動の推進ということで先ほど「ニュースポーツフェスティバル事業」のことを御説明申し上げましたが、「おじゃビンゴ」というのが、実は西脇発祥のニュースポーツです。先だっで行われました神戸マラソンでも、デモンストレーションをするため、担当職員が行っておりました。「おじゃビンゴ」は「おじゃみ」を投げて、その四角のマスの中でビンゴを目指し点数を競うゲームです。小さい子どもからお年寄りまで誰でもできるので、それを面白くできないかと思ひまして、今、播州織で「盤」と「おじゃみ」を作ってもらっています。播州織工房館、情報未来館に試作品を作ってくださいまして、この前の神戸マラソンで播州織のPRも兼ねて行ってきたところですが、興味をもって見ていただいた方が多かったという報告を受けています。「誰でもできるし、楽しいね。」というお声が多く、好評だったとのこと。

◎片山市長

少し聞いたのですが、学力向上でお世話になっている「ほめ言葉のシャワー」の菊池省三先生がテレビに出られるということですか。「世界一受けたい授業」だったのですかね。次はいつお世話になりますか。

○事務局

1月23日のPTCA連合会研究大会で御講演いただく予定です。

○事務局

テレビに出られるのが「世界一受けたい授業」で、12月5日の土曜日に放送予定です。

◎片山市長

教職員の方が講演を受けられて好評なので、是非、教職員や一般の方、保護者の方にもお知らせすればどうかと思います。西脇市にも、こういった形で来ていただいていますので。

○事務局

是非、広報させていただきます。

◎片山市長

テレビの放送を見られて、全国的にオファーが増えてくると次の機会が取れにくいと思います。西脇の場合は去年から来ていただいていますから、大丈夫だと思いますけど。

○笹倉教育長

今年は本当に中学生、高校生が活躍してくれて、やはり、子どもが元気だったら、まちが元気になる感じがしますね。昨日も地域医療フォーラムの後に東中学校の吹奏楽を見に行ったら、ものすごくレベルが上がっていました。その前の日は、ストリートフェスティバルでの南中学校の吹奏楽もレベルが高い大人のような演奏をしてくれましたし、指導する先生の力もすごいなと感じました。スポーツにしても、いろいろな面で自信を付けさせることで教育のレベルも上がると思います。トップも下位も伸ばしたい。今、いろいろと作戦を練っています。

◎片山市長

南中学校の野球部も全国大会に出場ですね。

○笹倉教育長

今、先生の力を上げることに必死になって頑張っていますが、菊池先生もおっしゃっていることで、家庭学習や学校を離れた時間帯に子どもたちの目がどちらを向いているか、気持ちがどっちに行っているかということを示すのが、お配りしている資料1にある「生活質問紙から」という欄のグラフです。これを見ると本市については、もう少し頑張してほしい、家庭でも支援してほしいという思いがあります。これからの課題はそこに行きつくと思います。特別支援の関係であるとか、発達障害の子どもたちの比率も上がってきている傾向にあります。一つ違うと教室でもコントロールできない状況があるのは、食生活であったり、家庭での生活実態が昔とは違うというのか、ルールづくりがうまくなかった

りということがあると思います。そういうところを支援していく方法はないのかと、教育の下支えとして、家庭と地域の力を付けることが、ものすごく大事だと思います。子ども会活動がジリ貧の状況です。そういうところが見えてきているのが、子ども会活動なのかもしれませんが、私が気になる場所としてはそのあたりです。今後、どういうふうにしていけばいいのか、まちづくり等を含めて皆さんの御意見を出していただければ嬉しいです。

◎片山市長

これは賛否両論ありますが、石川県加賀市というところで「家庭教育支援条例」が制定されています。条例を制定するという事は、市と教育委員会、家庭それぞれの役割を義務化するということです。そこまで条例であるのかということですけど、この市ではされています。ただ、反発もあるようです。

○委員

私たちも子どもを持つ親です。今、一生懸命に学力向上やいろいろな事を教育委員会や先生がされていますが、結局、家にいる時間の方が長いから、親がどうやって学校に関わっているのかという実態が把握できればと思います。例えば、運動会になったら自分の子どもしか見ていない親が多いです。運動会全体としての子どもの動きなどは多くの親が見えていないのではないのでしょうか。家庭の関わりというものがすごく大事なのと、今、教育長が言われた小さい頃からのルールづくりということができていないということがあると思います。また、幼保一体化になる中で、幼稚園、保育所との関わりも重要になってきます。いくら先生や教育委員会が頑張っても、親があっちを向いては、なかなかできないと思います。子ども会の問題にしてもそうですし、市民や親をもっと巻き込んでいく方法が何かあればと思いますが、条例にまで縛られてというのは、情けないことのように思いますので、どうかと思います。家庭でどう取り組んでいくかについては、もっと広報していく必要があるのではないかと思います。親に対しては失礼になるかもしれませんが、そういう情報発信も必要ではないかと思います。

○委員

子ども会の廃品回収ですが、役員さんだけが出るところと、親全体が出るところと2とおりあります。関わり方の違いだと思いますが、やはり、親全体で子どもたちと一緒に回収するところの方が元気だと感じます。

○事務局

1人の市民としてですが、今おっしゃったとおり、役になると大変なので、子ども会には入らないというところがあったりします。私の住んでいるところも5、6年生の親が役員だったのが、子どもが少なくなったので、ほぼ全員が役員をしなければならない。今まで2年間でよかったのが、6年間ずっとされていたり、会長を2回されたとかいうこともあるようです。子ども会に入っていないところにも、来てくださいという声掛けをしていただいていますし、青少年センターも子ども会に入っていない子どもも立春式には呼んでいます。子ども会だけでなく、老人会も同じような状況になっているところがあると思います。何が効果的なのかと言われると、難しいです。役所から声を掛けるというのがありますが、地域の気にしてくださっている方が声を掛けていくのが一番効果的なのかなと思います。

○委員

そういう意味では、子育て学習センターは、就学前の子ども同士を繋ぐプログラムや、子どもの親同士を繋ぐプログラム、世代間を繋ぐプログラムなど、いろいろな事業に取り組んでいらっしゃいます。各地区に「マミィ」という、地域で活動されている若いお母さん方がいらっしゃって、先日も野村・重春地区で人形劇か何かをされていました。自分たちで情報発信して、そこに来られていないお母さん方にも声掛けをされて活動されています。保育園や幼稚園に入る前のお母さんたちの繋がりを作る場として大きな役割を果たしていると思います。また、保育園などに入られてからも、親同士が顔を知っていることで、ちょっとしたトラブルがあった場合でも、親同士の信頼関係ができていますので、割とスムーズに解決に向かっているのかなということを感じたりします。

○事務局

今、小学校で苦情が学校に持ち込まれるケースがあります。また、学校で事が起きますと、保護者の中で情報が回って、こじれてしまうケースがあります。学校に苦情を言いに来られる保護者は、孤立しているので聞いてほしいということがあると感じることもありますし、委員がおっしゃられたように、就学前教育、今度、幼稚園を統合するわけですが、子育てセンターと幼児教育センターが連携して、家庭支援をすることが大事だと思います。親同士の繋がりが昔に比べてすごく減ってきています。小学校でも昔は親子活動がよくありましたが、そういうことを復活させるといことも検討していく必要があると思います。

○委員

親が苦情とか要望を学校に対して言われますが、逆に、学校の先生か

ら保護者に対して言いたいこともあると思います。せめて、PTAの役員ぐらいには、難しいとは思いますが、決して口外しないという約束の下で、先生の本音を伝えてもいいのではないかと思います。信頼関係があったらになりますけど。犠牲になるのは子どもなので、子どもがよりよい環境で、気持ちよく学校に来られるにはどうしたらいいかということです。

それと、学校でも役に当たるのが嫌だという話ですが、自分自身もいろいろな役をしてきました。役員をしていたら、その繋がりができたり、交友関係ができますが、それが煩わしいと感じる方もおられます。西脇小学校で「おやじの会」というのを作って活動していますが、なかなか下の年代が入ってきません。役員ばかりがメンバーで、子どもがもう高校生・大学生で、小学校に子どもがいないメンバーばかりで小学校に行って、もちつきやおばけ屋敷などをしています。今の親に声を掛けても一切入ってこないのは、煩わしいというところが本音だろうと思います。先生の本音も伝えることができたなら、また、方向性が変わるのではないかと思います。

○委員

本来、そういったことをしなければならないのはPTAなのではないかと思います。在り方というのを、再度考えなければならない時期なのかなと思います。

◎片山市長

そのあたりの在り方を考える機関というのは、教育委員会ですね。今、御指摘があった親子活動を盛んにということですが、来年度の目標で言えばどこになりますかね。「学校・家庭・地域の連携」ですかね。

○委員

学校の活動をするというのはすごく理想なんですけど、私も実際に子どもが小学校の時にはしていましたが、やはり、仕事を持っている母親が多いので、なかなか成り立たないというのが現状だと思います。昼間に活動したり、わざわざ仕事を休んでいかなければならない。それは多分、私自身は横の繋がりを求めていたから入ったのだと思います。今は横の繋がりとというのは、ネット上でいくらでもできるから、そういった活動に入っていない方が多いのではないかと思います。親も忙しいというのが実情だと思います。なかなか難しい問題です。

○委員

親子会をしている学校は市内にもありますね。楠丘小学校はしていたように記憶しています。学年でやっていたけど。

○委員

西脇小学校は年に1回ですがあります。

○委員

休みの日になわとびをしたりする行事がありますね。

○委員

私の地域では、夏の奉仕作業の後にしていました。PTAの学級委員が主催されていました。

○事務局

なかなか、保護者の方に行事を作って来ていただくということが難しいので、例えば、加西市では総合学習の中で環境プログラムといって、子どもたちの安全の見守りも兼ねて保護者の方に来ていただいて、学習をした後で保護者の方と子どもたちと先生がふれあう機会を設けるという工夫をされているところもあります。先ほど市長がおっしゃいましたが、地域と学校の在り方の調査研究は、主にハード面、ソフト面の大きな仕組みのことになると思うのですが、その学校の今後の地域との連携の在り方を含めて研究していく必要があると考えています。

○委員

参観日の後に、学級単位で先生と懇談する機会があったと思いますが、その参加率というのはどうなっていますか。

○事務局

参加率は小学校で見ますと、年度替わりなどは60～80%程度ですが、特に6年生、1年生などの節目の学年の年度当初は多いですが、徐々に減ってきてまして、半分以下になることもございます。

◎片山市長

せっかく調査研究をしていただいている、委員さんはPTAをされた方ばかりだと思いますが、PTAの役員をしても、なかなかそういう情報はよそから入ってこないの、簡単にA3用紙1枚ぐらいで、例えば市内だけでも、この小学校はこんなことをしていますということをお知らせしたらどうでしょうか。そういうPTAの情報を役員が決まった時ぐらいに知って、それで動きが出てくれればと思うんですね。ここで話している内容は伝わりにくいと思いますので、何かしらそういう仕組みがあればと思います。

○委員

1月にPTCAの会がありましたが、その会をする時には自分たちが1年間ほぼ終わっている時なので、他の学校がこんなことをしていたということを知って終わるという状況です。その段階では次年度の方が決

まっていると思うのですが、次年度は4月から始まりますが、いい機会なので次年度の方も見られたらいいのにと考えたことはあります。

○委員

その頃にはまだ決まっていなかったのではないですかね。

○事務局

P T Aの関係は生涯学習課で担当しています。私も何回かP T Aの会議に出ましたが、自分がした頃との意識の違いというのを感じることがあります。「したくてしたのではなく、くじ引きで選ばれて来た。」ということを経験の場で平気で言われる方がいます。就任された限りは、学校のため、子どものために一生懸命やりたいという気持ちは皆さん持たれています。今、ありました情報交換についてですが、各学校でされている事業については、大体同じレベルかなと感じています。環境や遊び、運動会のサポートであるとか、大きくは変わりません。地域ごとの特性があるのだから、特性を生かした何かができないかなと意見を言ったことがあります。なかなかすぐにどんなことをすればいいかということには思いつきません。今までその学校でされてきたP T A事業を見直すことも大事ではないかと思えます。集まる回数が多いと大変だと思うのではなく、そのあたりの整理をした方がいいのではないかと思えます。行事はあまり多く作らない方がいいということが伝わってくる感じがします。今、委員がおっしゃいましたP T C Aの事業ですが、1年間やってきた活動の成果発表の場です。ほとんど役員の方ばかりがされているので、自己満足のように思っている部分はあると思えます。そのあたりについても検討していきたいと思えます。

◎片山市長

次年度の役員さんは何月ぐらいに決まりますか。

○事務局

2月の下旬頃だと思います。3月上旬頃に新旧の役員さんが集まる会合があります。

◎片山市長

その時に成果発表をされたら、間に合わないのでしょうか。

○笹倉教育長

一番いい時期の春に総会をします。その時はしゃんしゃんの会を目指すから、なかなか難しいのです。本当はそこで議論して、最後にお疲れ様となるのがいいのだけど、やりましたよという結果だけで終わっていて、委員がおっしゃるとおりです。サンプルのようなものを作っておいたら、次のところでそれを議論するということが大事ではないでし

ようか。そういう流れになっているのだろうけど、事業案について、「何もありません。」で終わってしまうのですね。

○委員

あと、1年間やったPTA役員の皆さんの仲の良い雰囲気も、自分たちが来年度、この時期を迎えるときには皆さんと仲良くなれるんだというところの力にもなれるのかなと思います。

◎片山市長

今年度と来年度の役員が一緒になって、会合を開いたら雰囲気も分かっているのかなということですね。

○委員

確か、1回だけありますね。1年間やってきたその過程を見て、自分たちもその過程を経て、1年間過ごしていくのだなといういい事例になると思います。

○委員

私が連合PTAの会長をしていた時のPTAの理事会は、事務局からの報告ばかりだったので、皆さん聞き飽きるというか、内容を考えようということで、2回目ぐらいから、2時間の会議のうち最後の40分ぐらいは好きなことをしゃべろうということで、事務局には説明はこの時間までに終わってくださいと言って、そうしていました。だから、割と小学校と中学校の連携が取れていたように感じています。それこそ、PTA役員で幼稚園、小学校、中学校、校区内で一緒になって、ご飯を食べに行ったこともありました。その時に、お互いの状況を話し合ったということもありました。その頃のメンバーが、今の「おやじの会」になっています。

◎片山市長

ということは、行政側はできるだけフランクな雰囲気会議を持っていったほうが良いということをおアドバイスしてくださっているわけですね。

○委員

必ずしもそうとは限りませんが。

◎片山市長

最近、日本経済新聞に「学力の経済学」という本が紹介されていて、これは面白そうだと思って読んでみました。中室牧子さんという教育経済学の先生の著書です。最近テレビにも出られています。何度か上京の度にアポイントを取ろうとしましたが、御都合が合わず、今度、1月に大阪に講演に来られますが、その時に30分時間をいただいたので、

会いに行こうと思っています。一言でいうと、アメリカで勉強されて、アメリカの場合は教育分野について、いろいろな数値的なデータをオープンにしていますが、日本の場合は、まさに学力調査もそうですが、なかなかオープンにしてこなかったということです。生々しい話も書いてあり、年収と学力はどう関係してくるであるとか、日本の教育界にとってはタブーな話がいっぱい載っています。全部が全部、鵜呑みにはしていないのですが、この本の中で私が一番感銘を受けたのが、先生が与える付加価値という部分です。これは多分、そのまま出してしまうと、教職員組合の方たちとの話になりそうな気がしますけど、そうではなくて、先生にも弱み強みがあるはずなので、それを伸ばしてほしいという思いがあります。それと、数値化することによって、より精密な対策が打てるのではないかと。こういうことを参考にしたいということは、議会でも答弁をしましたので、教育委員の方々にも情報提供しておきます。

◎片山市長

ほかに御意見等ございませんか。

御意見がないようですので意見交換を終わります。事務局からの連絡事項等お願いします。

○事務局

本日、協議していただきました内容に関連いたします政策予算の見積額等につきましては、今後の教育委員会定例会において報告させていただく予定としております。今年度の総合教育会議につきましては、緊急の場合を除いては、本日をもって終了となります。また、来年度の総合教育会議につきましては、今年度と同様に2～3回程度の開催を予定しておりますが、開催時期等、詳細が決まり次第、御案内をさせていただきますのでよろしくお願いたします。以上です。

◎片山市長

それでは、これをもちまして、第2回総合教育会議を閉会いたします。お疲れ様でした。

————— 閉 会 —————